

ケラーマンとヴァルザーが愛したMIYAZUプログラム

旧三上家住宅歴史講座・丹後郷土資料館文化財講座

# 旅の風景

## — 宮津と天橋立 —



明治41年（1908）、ドイツ人作家のヘルンハルト・ケラーマンと、スイス人画家のカール・ヴァルザーが宮津を訪れ、近代宮津の姿を描き出しました。

本講座では、ヘルンハルト・ケラーマン、カール・ヴァルザーの宮津での足跡を紹介するとともに、古代・中世から近代にわたり、宮津や天橋立を訪れた旅人たちの姿をたどります。

**会場** 重要文化財 旧三上家住宅

**時間** 16:00～17:00

**定員** 先着30名(参加無料・事前申し込み不要)

**開催日** 5月から10月の第4土曜日（全6回）



第1回 5/23 「ケラーマンとヴァルザーの愛した宮津」  
河森一浩（宮津市教育委員会）

第2回 6/27 「旅人の風景—宮津と天橋立—」  
河森一浩（宮津市教育委員会）

第3回 7/25 「中世の旅—僧侶と武士の旅と文化—」  
鶴岡衛大（宮津市教育委員会）

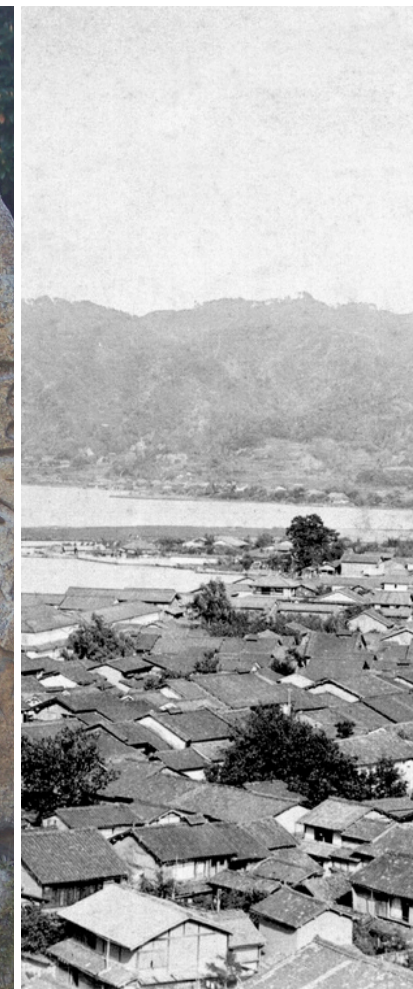
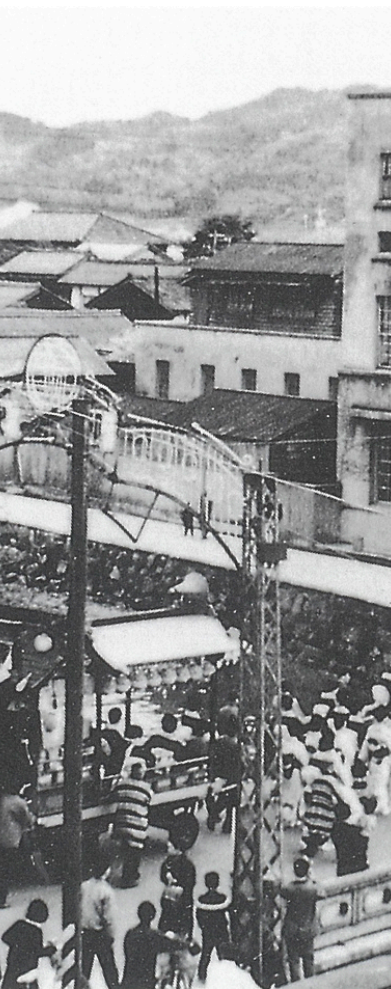
第4回 8/22 「燕村をたどる—俳人・河東碧梧桐の旅—」  
竹下浩二（与謝野町教育委員会）

第5回 9/26 「与謝野寛・晶子の旅の歌」  
竹下浩二（与謝野町教育委員会）

第6回 10/24 「絵になる宮津—天橋立の景色と旅する人々—」  
杉田真菜（京都府立丹後郷土資料館）

主催：宮津市教育委員会 京都府立丹後郷土資料館 後援：NPO法人 天橋作事組

お問い合わせ：宮津市教育委員会社会教育課（文化財保護担当） TEL:0772-45-1642



旅人が心惹かれた  
宮津・天橋立の魅力とは？

カール・ヴァルザー日本初の回顧展が東京・大阪で開催！  
絵画や素描など約150点の作品すべてが日本初公開

### 東京

スイス絵画の異才 カール・ヴァルザー 世紀末の昏き残照

会期 2026年4月18日(土) - 6月21日(日)  
会場 東京ステーションギャラリー  
休館日 月曜日 [ただし5/4、6/15は開館]  
開館時間 10:00 - 18:00 [金曜日は20:00まで]



### 大阪

スイス絵画の異才 カール・ヴァルザー

会期 2026年7月4日(土) - 9月27日(日)  
会場 大阪中之島美術館  
休館日 月曜日  
[ただし7/20、8/10、8/24、8/31、  
9/7、9/14、9/21は開館]  
開館時間 10:00 - 17:00



## ケラーマンとヴァルザー

明治41年(1908)、二人の外国人が宮津を訪れました。ドイツ人の人気作家、ベルンハルト・ケラーマンと、スイス人の画家、カール・ヴァルザー。出版社の企画で来日し、帰国後に『日本散策記』(原語:Ein Spaziergang in Japan)、『さっさよ やっさ 日本の踊り』(原語:Sassa yo Yassa. Japanische Tänze)をベルリンで刊行しました。

ベルンハルト・ケラーマンは『日本散策記』の中で、宮津での日々を「ぼくは日本に滞在中、最もすばらしい時をここで過ごした」と語っています。東京、京都、宮島、伊勢など日本各地をめぐるしました。

2人は、宮津を最も気に入り、荒木旅館に滞在。宮津の人たちと交流を重ね、その眼差しは、まちの素朴な美しさや、足繁く通った茶屋「山中」の芸子たちの歌と踊り、祭りにたずさわる人々の姿に向けられました。

ベルンハルト・ケラーマンの文章と、カール・ヴァルザーの挿画は、明治時代の宮津を生きいきと描き出し、その文化を海外に発信しました。現在もスイスの国立図書館や美術館には、カール・ヴァルザーの絵画が所蔵され、日本滞在中の作品も多く確認されています。



宮津市特設サイト  
「旅と宮津」